ピース・ウイング長崎 会報

へいわ

106号

■財団法人長崎平和推進協会 〒852-8117 長崎市平野町7番8号 ■電話（095）844-9922　FAX（095）814-0056
http://www.peace-wing-n.or.jp

■被爆60周年記念行事の紹介
■長崎の原爆遺跡・慰霊碑
ウォークマップを発行
■シカゴ平和博物館での原爆展に参加して
■米国市民に感銘を与えた体験講話
■「アジア青年平和交流」事業を実施します
■最近のニュースから
■第17回外国人による日本語弁論大会開催される!!
■16年度はこのような事業を実施してまいりました
■お知らせ

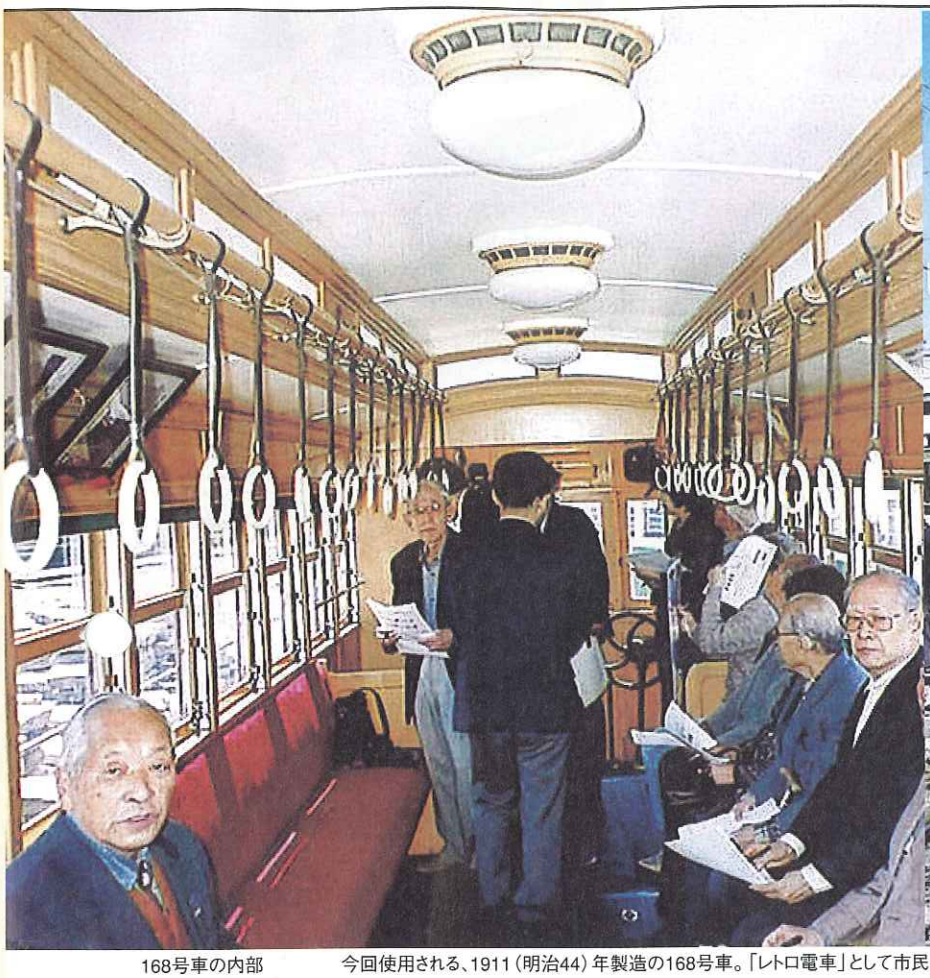
被爆60周年

原爆死没者への祈りの空間・・・

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館へ出かけませんか？

被爆60周年記念行事の紹介

本協会では、今年被爆から60周年を迎えるにあたり、部会等が中心となり様々な行事を行います。60年前の長崎原爆の悲惨さを思い起こし平和の尊さをあらためて考える機会にしていただきたいと思います。



168号車の内部

今回使用される、1911（明治44）年製造の168号車。「レトロ電車」として市民に親しまれています。

「電車は語るあの夏の日」（レトロ電車）

主催／継承部会

被爆体験継承の新たな方法として、レトロ電車に乗って沿線の市街地を巡りながら、被爆者から子どもたちに被爆当時の様子を語り伝えてもらいます。

抽選で選ばれた小学5・6年生と保護者をペアとして、1回15組の30名、2日間で4回120名の親子が参加することになっています。

日程：平成17年8月2日（火）
3日（水）

コース

往路：浦上車庫発～赤迫～長崎駅前～出島～公会堂前～蛍茶屋（休憩）

復路：蛍茶屋～公会堂前～（桜町）～長崎駅前～浦上駅前～浦上車庫着

中学生による原爆と平和を継承する集い

主催／継承部会

当協会の継承部会員の平均年齢は74歳と年々高くなり、継承活動による核兵器廃絶の訴えは益々困難になっていくことが予測されます。

被爆地長崎に生まれた中学生に「被爆体験の継承」について、どのように考えているのか意見を聞き、今後の活動に活かしていきたいというものです。

開催日時：平成17年7月28日（木）
午後1時30分～3時30分

開催場所：長崎原爆資料館
平和学習室

※傍聴参加は自由で無料です

被爆前・被爆後のナガサキ原爆写真展

主催／写真資料調査部会

被爆前・後の長崎のまちの写真を対比することにより、原爆の脅威、戦争の悲惨さ、そして焦土から復興へ努力を続ける市民の姿とともに、核兵器廃絶と平和を希求する姿勢を訴える写真展にしようというものです。

会場では、写真資料調査部会員が説明し、期間中は国際交流部会員が外国人来場者のために英語ボランティアとして待機することになっています。

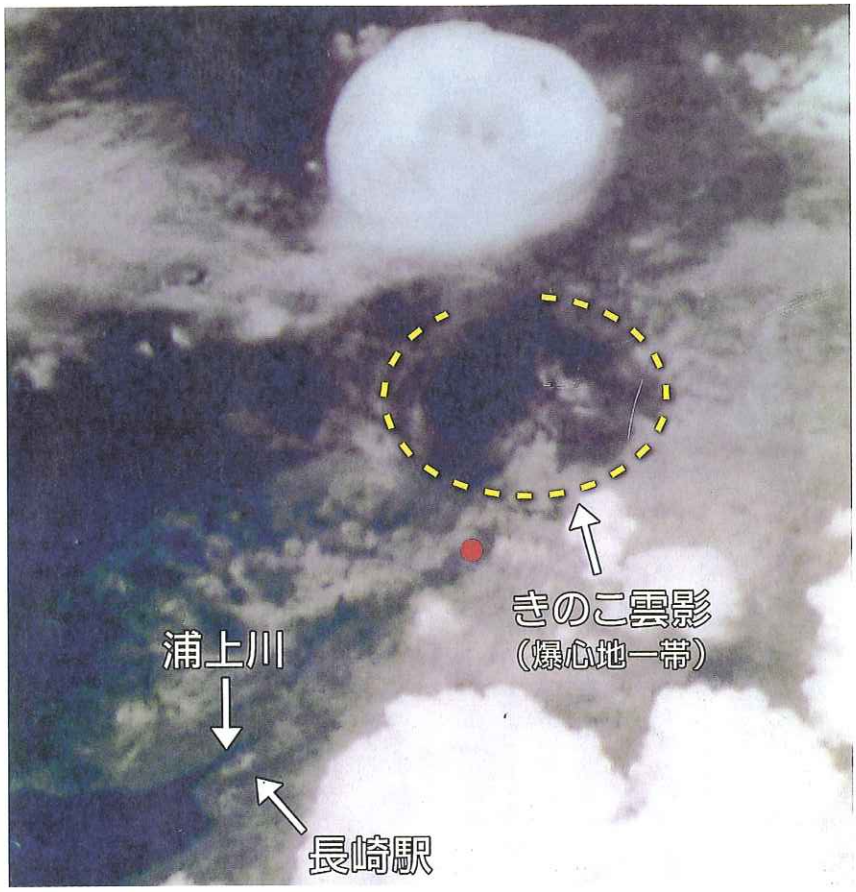
開催期間　平成17年8月6日（土）～10日（水）

時　間　午前9時～午後7時（10日のみ12時まで）

会　場　市民会館　展示ホール

展示枚数　約220点

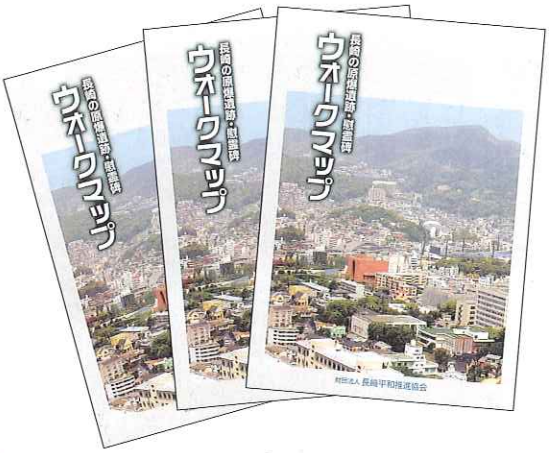
※入場は無料



今回、はじめて展示される、長崎原爆の炸裂直後の写真

長崎の原爆遺跡・慰霊碑 ウォークマップを発行

当協会の、継承部会碑巡り班班長の室園久信氏の資料を基に作成した、碑巡り本「長崎の原爆遺跡・慰霊碑ウォークマップ」を発行いたしました。



これまでに室園さんが地道に調べ上げた数冊の資料の中から、主に爆心地から半径2キロあまりにある130カ所を選び、12のエリアに分け、地図上に位置を明記しました。各碑をカラー写真に収め、碑文や説明文を掲載しました。

碑文によっては、建立した関係者の思いなどを垣間見ることもできます。日頃は目立たない、町内会などで建立された小さな碑も一部収録しています。

原爆や平和を考えるときの参考図書としてご活用ください。

市内の小・中、高校などに無償で配布しますが、購入希望者には、原爆資料館の図書販売コーナーにおいて実費（消費税込1,000円・100部）で限定販売しています。

国として、初めて行う海外原爆展が、長崎原爆死没者追悼平和祈念館により、アメリカのシカゴ平和博物館で開催されました。開会セレモニーに同祈念館の丸田館長が出席し、当協会から継承部会の吉田勝二さんが派遣され、5月4日から14日迄の間、デポール大学や地元の高校生などに精力的に体験を語り、地元のラジオにも出演するなど、心を込めて核兵器廃絶と平和の尊さを訴えました。

シカゴ平和博物館での原爆展に参加して

継承部会
吉田　勝二

初めてのアメリカ、感動を表わしてくれる市民

5月4日、長崎より中部国際空港を経てシカゴオヘア空港着。

5日、遊覧船に乗り、シカゴ川をクルーズ。

デポール大学の学生を前に、被爆体験を語る吉田さん。

トウモロコシを表現したもの、ウイスキーの瓶を模ったビルなど、超高層ビルは一棟一棟形を変えて建ち並び、建築の街シカゴとは聞いていたが、なるほどとうなずける壮観さでした。

翌日は、当地で初めての原爆写真展です。

平和博物館では、若い女性館長のマグワイアさんが、多くのボランティアの協力を得て、展示の準備をしていました。写真等は壁に貼るのではなく、天井より糸で吊り、両面を活用するなど、限られたスペースを利用する工夫がこらされていました。

折鶴コーナーには畳が敷いてあり、「囲炉裏」まで造作し日本色がかもし出されていました。

別室では、元ビートルズのジョン・レノンのギターや、人気グループのU2（私は知りませんでしたが）のギターが、グリーンの色もあざやかに展示され、趣向を凝らした構成にたいへん感心させられました。

開会式ではジャズが演奏される中、オープニング・セレモニーが行われ、若い人からお年寄りまで、約百人の人が訪れ、私はそこで被爆体験を話すことになりました。

話し終わると、握手を求めてくる人、涙を流しながら抱き合ってくれる人など、アメリカ人らしく私の話しに率直に感動を表してくれます。この広いアメリカの中のシカゴの街でも、平和を愛する人が大勢いてくれると思い、訪れてほんとうに「よかった」と実感しました。

また、4日目の午前中、近所の高校から講話の依頼があり、急遽、平和博物館で被爆体験を話すことになりました。15名ほどでしたが、生徒と対面で話すことができて非常に親近感を覚えました。先生はもちろん、みんな真剣に聞いてくれました。

「原爆が落ちた瞬間は、何を感じましたか」と聞かれ、私は「一瞬のことで、何も考える余裕はなかった」と答え、また「原爆を落としたアメリカが憎いですか」との質問には、「戦争は憎んでも、人を憎んではいけないと思う」と答えました。

午後は、日本領事館公邸での夕食会に招かれました。その夜は、ノースウエスタン大学で体験談を話しました。

マグワイア館長（中央）から、館内の案内を受ける。

5月11日には、デポール大学で3回に渡り、各クラス単位で夜遅くまで講話を行いました。

初めてのシカゴ訪問で、多くの人たちと心のふれあいを感じ、親近感を覚えると同時に、ほんとうに「平和とは、さわやかないい言葉だなあ」と実感しました。

シカゴの人たちからも、私たちと同様に、戦争を再び起してはいけない。平和がいつまでも続き、人を愛し、人の痛みがわかる心をもって楽しい健康的な毎日を過ごそうとの話を聞き、改めてシカゴを訪問してよかったと思いました。

最後はシカゴ市民に敬意を表して、私のつたない英語でしめくくりました。

「The basis for Peace is for people to understand the pain of others」

（平和の原点は、人間の痛みがわかる心をもつことです）

米国市民に感銘を与えた体験講話

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館　館長
丸田　徹

被爆から60年目の節目の年となる今年。国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館が主催し、国の機関として初めての海外原爆展を開催しました。

場所は、アメリカ合衆国のシカゴ市で、5月6日から8月14日までの約100日間となっています。

今まで広島市と長崎が開催してきた海外原爆展と異なり、国自らが原子爆弾による被害の実相を海外に伝え、被爆国民の平和に対する思いを訴えるという点で、たいへん画期的で意義深いものです。

私は、主催者の代表として、開会セレモニー出席のためシカゴを訪問しましたが、現地で被爆体験を語っていただく、吉田勝二さん（長崎平和推進協会継承部会員）にも同行していただきました。

原爆展会場のシカゴ平和博物館は、シカゴ市の中心部から西へ、車で20分くらいの所で、郊外の住宅地の中に設けられた広々とした公園の一角にありました。

建物は、100年以上も前に建てられた落ち着いた雰囲気と、中央にある金色のドームが非常に印象的な建物でした。

館内の展示スペースは、決して広いとはいえませんが、長崎から送った40点の写真パネルと20点近くの被爆資料が実に感じよく、効果的に展示してありました。

マグワイア館長は、「9年前に長崎の原爆資料館を訪れ、初めて被爆の実態を知り、強い衝撃を受けた。少しでも多くのアメリカ人にこの事実を知ってもらいたいと思った。」と今回の原爆展の開催を引き受けた理由を語ってくれました。

5月6日の開会式の当日は、100人以上のシカゴ市民が集まり、写真パネルや被爆資料を熱心に見て回っていましたが、午後7時から始まった吉田さんの体験講話の時も、ほとんどの人が残って、1時間あまりの話を真剣な表情で聞き入っていました。

吉田さんには、この日も含めて平和博物館で3回、シカゴ市内の2つの大学で4回、合計7回もの過酷なスケジュールでお話をしていただきました。

毎回、熱心に心を込めて話される被爆体験に、シカゴ市民は深い感銘を受けていた様子でした。

また、核兵器の恐ろしさや被爆者の平和に対する熱い思いを十分理解してもらえたのではないかと感じました。

一方、残念だったことは地元メディアの対応でした。地元のラジオ局を除いて新聞もテレビも、私たちの滞在期間中まったく報道してくれませんでした。無関心なのか無視されたのかよくわかりませんが、いずれにしても、これが現在のアメリカ国内の、原爆投下や核兵器問題に対する一般的な認識なのだろうと、たいへん残念に思いました。

今回の原爆展開催にあたっては、私たち追悼平和祈念館の職員にとって初めて取り組む事業であり、一年あまり前から慎重に準備を進めてきました。この間、厚生労働省や広島・長崎の原爆資料館を始め、関係機関の皆様には、助言や資料の提供等たいへん多くのご協力をいただきました。

また、何よりも色々と困難な条件があるにも関わらず、積極的に今回の原爆展の開催を受け入れていただいたシカゴ平和博物館の皆様には心からお礼を申し上げたいと思います。

マグワイア館長からは、開催から約1か月過ぎた時点で、おおよそ1、000人の入場者があったとの報告がありました。職員一同の1年間の苦労が報われた思いでたいへんうれしくなりました。

残された期間中さらに一人でも多くのシカゴ市民の方々に足を運んでいただき、今回の原爆展をとおして、被爆者を始め私たち日本国民の「核兵器のない平和な世界の実現」に対する願いや思いに触れてもらえたら幸いと考えています。

被災資料に見入るシカゴ市民

「アジア青年平和交流」事業を実施します

本協会では、昨年に引き続き今年8月、日本と韓国の青年が互いの国を相互訪問し、ホームステイをはさみながら交流事業を行います。

現地の歴史や文化に触れ、色々な人との出会いやシンポジウムをとおして、平和や原爆に対する認識を深めてもらうものです。

今回も昨年同様、長崎の青年と韓国の青年とが、長崎と韓国（釜山）をお互いに訪問して、原爆に関する施設を見学し、シンポジウムに参加するなど両国の歴史・文化を学び交流を深めます。

募集人員は日本、韓国ともに6名ずつの12名の予定です。本紙が発行される頃には参加する両国の青年や日程の詳細についても決まっていることでしょう。

日・韓青年が一緒になり、ハプチョンの原爆福祉施設を訪ねました。

交流日程

事前研修

7月中旬～下旬（詳細日程未定）

長崎での交流会

8月7日(日)～12日(金)韓国人青年来崎

・長崎原爆資料館、国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館、被爆建造物等の見学

・青少年ピースフォーラム及びハト（8・10）会議への参加

・平和祈念式典への出席、恵の丘原爆ホーム訪問、被爆者との交流等

韓国での交流会

8月25日(木)～30日(火)日本人青年訪韓

・韓国被爆者療養施設の訪問（ハッチョン）

・独立記念館・近代歴史博物館等の見学（釜山）

・意見交換会の開催（釜山）等

この「アジア青年交流事業」は参加する日本と韓国の青年たちにとって、文化の異なる国で暮らし、ものの考え方や価値観の違う外国人と交流する貴重な体験となり、これからの人生の大きな財産になるのではないかと考えています。

最近のニュースから

「核不拡散条約（NPT）再検討会議」

核不拡散条約は1970年に発効し、現在189カ国が加盟している、多国間による唯一の核軍縮に関する条約です。しかし、98年に核実験を行ったインドとパキスタン及び核兵器を持っていると言われるイスラエルそして北朝鮮（03年1月に脱退）の4カ国は加盟していません。

この条約は核兵器を持つことができる国（**核保有国）を米国、ロシア、英国、仏国、中国**の5カ国だけに限り、それ以外の国（**非核保有国）は他国から核兵器をもらったり自ら造ることを禁止**するものです。加盟国には原子力発電など**核の平和利用**を行う権利が認められているものの、そのうち非核保有国には国際原子力機関（IAEA）による厳しい**査察**を受ける義務があります。このような差別的な取り扱いから不平等条約と呼ばれています。一方、核保有国には「**核軍縮条約について誠実に交渉を行う**」ことが義務づけられているものの、これまで核軍縮に熱心でなかったことも大きな問題となっています。

再検討会議は、条約の運用について検討するため、発効から5年ごとに開くことができるようになっており、今回で7回目になります。

さて、今回の会議は、5月2日から27日までニューヨークの国連本部で開かれましたが、「核不拡散」「核軍縮」「原子力平和利用」の3つの委員会すべてで合意が得られないまま、最終文書の採択もなく、決裂状態で閉幕しました。

今回の焦点は、5年前の会議で採択された「核保有国による核兵器廃絶への明確な約束」を具体的に進め、一方では新たな核保有国の出現に如何に対応するかにありました。しかし、「平和利用」を隠れみのに核開発を企んでいると思われる国が現れていること、これに対しアメリカは平和利用の権利を認めない新たなルールを提案する一方で、核軍縮に向けた協議を拒み続けたこと。イランが核開発疑惑への批判をかわそうと議事を妨害したことなど様々な理由が指摘されています。

そのような中で、**前回のレベルからの後退を阻止できたことがせめてもの成果**であるとの見方もあります。「核不拡散体制崩壊の危機」との言葉も聞かれるように、今後の核軍縮や不拡散の方向性を示し得なかったことは大変残念であり、国際社会にとつて新たな課題が突きつけられたと言えるようです。

第17回外国人による日本語弁論大会開催される!!

去る6月11日（土）に原爆資料館ホールにおいて「第17回外国人による日本語弁論大会」が開催されました。

この弁論大会は、当協会が平成4年度より主催者として参画しているもので、今年は留学生を中心に県内外から34名の応募があり、一次審査を通過した10名が当日の本選に出場しました。

今回の10名の中には、昨年当協会が実施したアジア青年平和交流事業に参加した韓国人青年金　映大（キム・ヨンデ）さん（長崎外国語大学に留学中）もおり、交流事業での思い出やボランティア活動に今後取り組んでいく決意などを熱弁しました。最優秀賞に輝いたスリランカ出身のスチッタ・グナセカラさんは、スマトラ沖地震による大津波被害の悲惨さと温かい手を差し伸べてくれた日本人への感謝の気持ちを感情豊かに表現していました。グナセカラさんは、会場に訪れた高校生が審査員となって選ぶ未来賞もあわせて受賞しました。

その他の出場者もジョークを交えながらそれぞれ巧みな日本語でスピーチを行ない、約200名の観客からの感嘆の声や大きな笑い声があがっていました。

そのほかの受賞者は、次のとおりです。

特別賞　候海霞（コウ　カイカ）さん（中国）

特別賞　金元雄（キム　ウォンウン）さん（韓国）

特別賞　付夢（フ　モウ）さん（中国）

熱弁をふるう出場者

16年度はこのような事業を実施しました

5月20日（金）と26日（木）の両日、評議員会・理事会が開催され、16年度の事業・決算の報告がなされました。

新規事業として始めた、「平和案内人育成講座」は92名という予想をはるかに超える受講者があり、講座終了後は57人が平和案内人として登録し活動をはじめています。また、第2期生の育成講座も17年度早々開講し、現在46人が来年1月からの実働に向け、これから合計16回の各講座に挑むことになります。

また、「ピースネット」と題してはじめたテレビ会議システムを利用した、遠隔地の小・中学生への被爆体験講話は、新聞テレビ等でも取り上げられ、実施した小・中学生からは、被爆者に宛てた感動を伝えるお礼状が届けられるなどたいへん好評でした。今後益々の充実をはかり17年度に引き継がれてまいります。

【第4号議案】平成16年度財団法人長崎平和推進協会決算報告書

1　一般会計収支計算書

平成16年4月1日から平成17年3月31日まで

科　目	予算額	補正・流用等	決算額
Ⅰ収入の部			
1基本財産運用収入	30,000	△3,495	26,505
2会費収入	3,935,000	638,000	4,573,000
（維持会員）	2,925,000	102,000	3,027,000
（賛助会員）	1,000,000	530,000	1,530,000
（臨時会員）	5,000	4,000	9,000
（学生会員）	5,000	2,000	7,000
3補助金収入	32,444,000	－	32,444,000
4寄附金収入	1,000	146,964	147,964
5基本財産収入	1,000	249,000	250,000
6繰入金収入	1,500,000	400,000	1,900,000
7雑収入	1,000	2,015	3,015
当期収入合計	37,912,000	1,432,484	39,344,484
前期繰越収支差額		74,862	74,862
収入合計	37,912,000	1,507,346	39,419,346

Ⅱ支出の部			
1事業費	14,457,000	1,556,199	16,013,199
（発刊事業費）	3,957,000	912,186	4,869,186
（啓発事業費）	2,700,000	△1,042,776	1,657,224
（調査研究事業費）	200,000	△40,500	159,500
（育成事業費）	6,673,000	△2,317,362	8,990,362
（推進対策事業費）	927,000	△590,073	336,927
2管理費	23,454,000	△383,867	23,070,133
（人件費）	20,428,000	△1,165,914	19,262,086
（人件費返還金）		556,135	556,135
（事務費）	3,026,000	225,912	3,251,912
3特定預金支出	1,000	249,000	250,000
当期支出合計	37,912,000	1,421,332	39,333,332
次期繰越収支差額	－	86,014	86,014
支出合計	37,912,000	1,507,346	39,419,346

祈念館だより

追憶　時代を超えた願い
～体験記と写真が語る　あの夏の日～

被爆から60年を迎える本年、長崎・広島の両国立原爆死没者追悼平和祈念館では、被爆者から寄せられた、手記・体験記を中心に、被災写真等を交え、2館の合同企画展が開催の運びとなりました。

長崎・広島それぞれの祈念館で、7月8日(金)から9月30日(金)まで開催されています。

長崎祈念館では、広島祈念館の紹介パネルや被災写真等も含め、写真等37点、体験記等20点をもとに、原爆で破壊された、聖フランシスコ病院の前身である浦上第一病院で被爆者の救護活動にあたられた秋月医師の医療器具の一部や、故・永井博士が救護活動時に残されたメモなど貴重な資料も展示しています。

入館料や入場料は無料です。自由にご見学ください。

平和祈念式典に向けて
祈念館で原爆死没者名簿の風通し

五月二十五日、原爆死没者名簿(原本135冊)の風通しが追悼平和祈念館で行われました。名簿は昨年八月九日現在の死没者134、592人の氏名が記された134冊と身元不明の死没者のための「白紙の名簿」一冊。週間天気予報を気にしながら日取りを決めた甲斐あって、当日は絵に書いたような五月晴れ。

前夜のうちに追悼空間から運び出された名簿は、朝から交流ラウンジに並べられました。原爆投下時刻の午前11時2分の黙祷をはさみ、祈念館スタッフや居合わせた来館者の方々、それにマスコミ各社が見守る中、市原爆被爆対策部職員の作業する様子は、初めて立ち会う者にとっては緊迫した雰囲気に感じられました。死没者名簿は、白い手袋の職員によって一頁ずつ丁寧にめくられ、五月の風が吹き抜ける様はおごそかな中にも爽やかな印象を残しました。作業は約1時間、正午までには風通しが完了しました。なお、八月九日の平和祈念式典では、昨年八月以降に死亡が確認された被爆者の名簿が追加される予定です。

死没者名簿の風通しの模様

ご寄附ありがとうございました

・柴田　夏乃　(三万円)
・佐賀県藤津郡太良町原爆被団会　(一千円)
・日野町立　日野中学校　(一万七百二十円)
・山下　ツルヨ　(二万円)
・岩本　孝子　(七百四十五円)
・長崎平和推進チャリティー　サッカー大会実行委員会　(二十万円)
・大阪市立　中島中学校一同　(七千六百円)

(敬称略)

会員数報告

平成17年5月31日現在

維持	1、321名
賛助	157名
臨時	11名
学生	8名
合計	1、497名

本紙は再生紙を使用しています。
平成十七年七月十四日発行
印刷　株式会社　インテックス